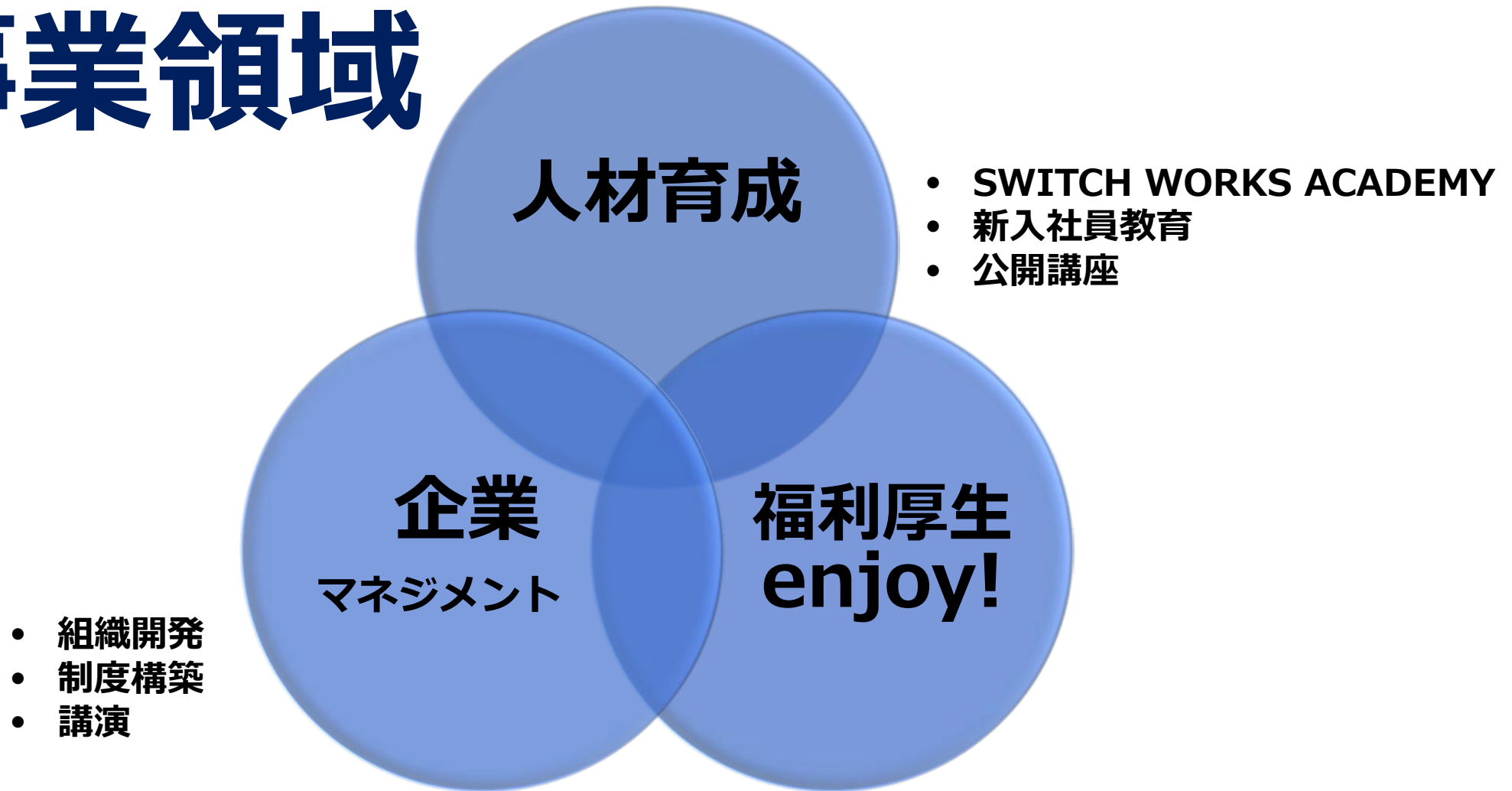




2017年 岡山県一般社員における 働き方の意識調査



■ 事業領域





2017年

岡山県一般社員における働き方の意識調査

【調査概要】

- 調査目的：岡山県内の一般社員の働き方についての志向と価値観を把握すること。
- 調査方法：インターネット調査
- 調査対象者：岡山県内の企業（常用労働者数 5 人以上を対象）に勤めている正社員(※ 1)。
20 歳 ～59 歳までの一般職の（役職についていない）男女。
- サンプル数：100サンプル
- 調査期間：2017 年 10 月 16 日～2017 年 10 月 26 日
 - ※ 1 正社員… 公務員、団体職員の正社員は含んでいません。
 - ※ 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%にはなりません。



働き方を、変えよう。

SWITCH WORKS

2017年岡山県一般社員トレンドワード

メトロノーム型

これからのキャリアをイキイキと歩むための情報を上司・先輩
もしくは社外活動の中で、効果的に得ることが出来ておらず、
非常に狭い視野でキャリアを考えている傾向が強い。
会社、上司のかかわり方も関与している。



世の中のトレンド

1. 働き方改革

残業時間削減（余った時間の使い方）

2. 教育現場

社内だけでなく社外へ。

異業種だけでなく、異文化、NPOなどの参加も増加している。

3. 岡山県有効求人倍率

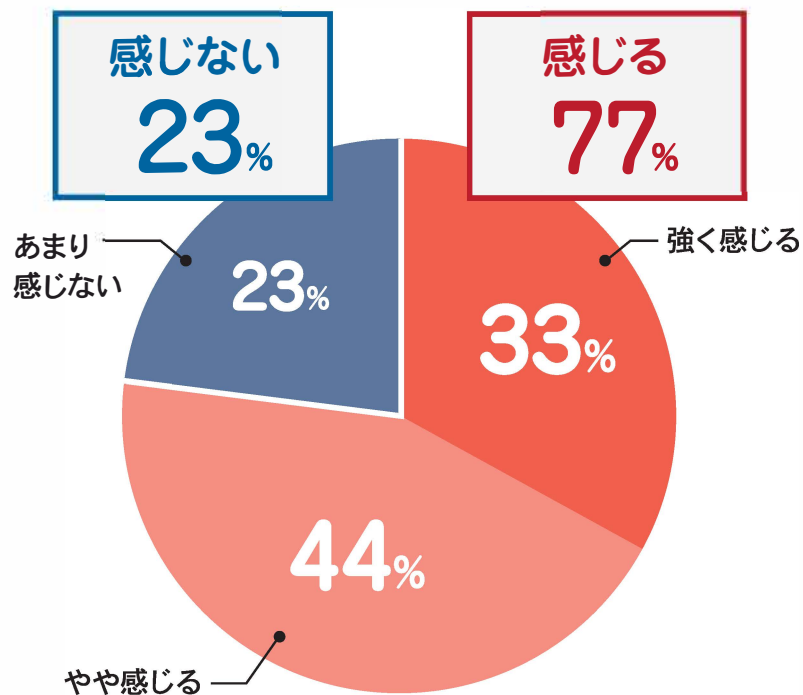
全国1.56倍 岡山県1.84倍（2017年11月時点）

4. その他

ワーク・ライフ・エンリッチメント（充実）によるワークとライフの相乗効果。

質問

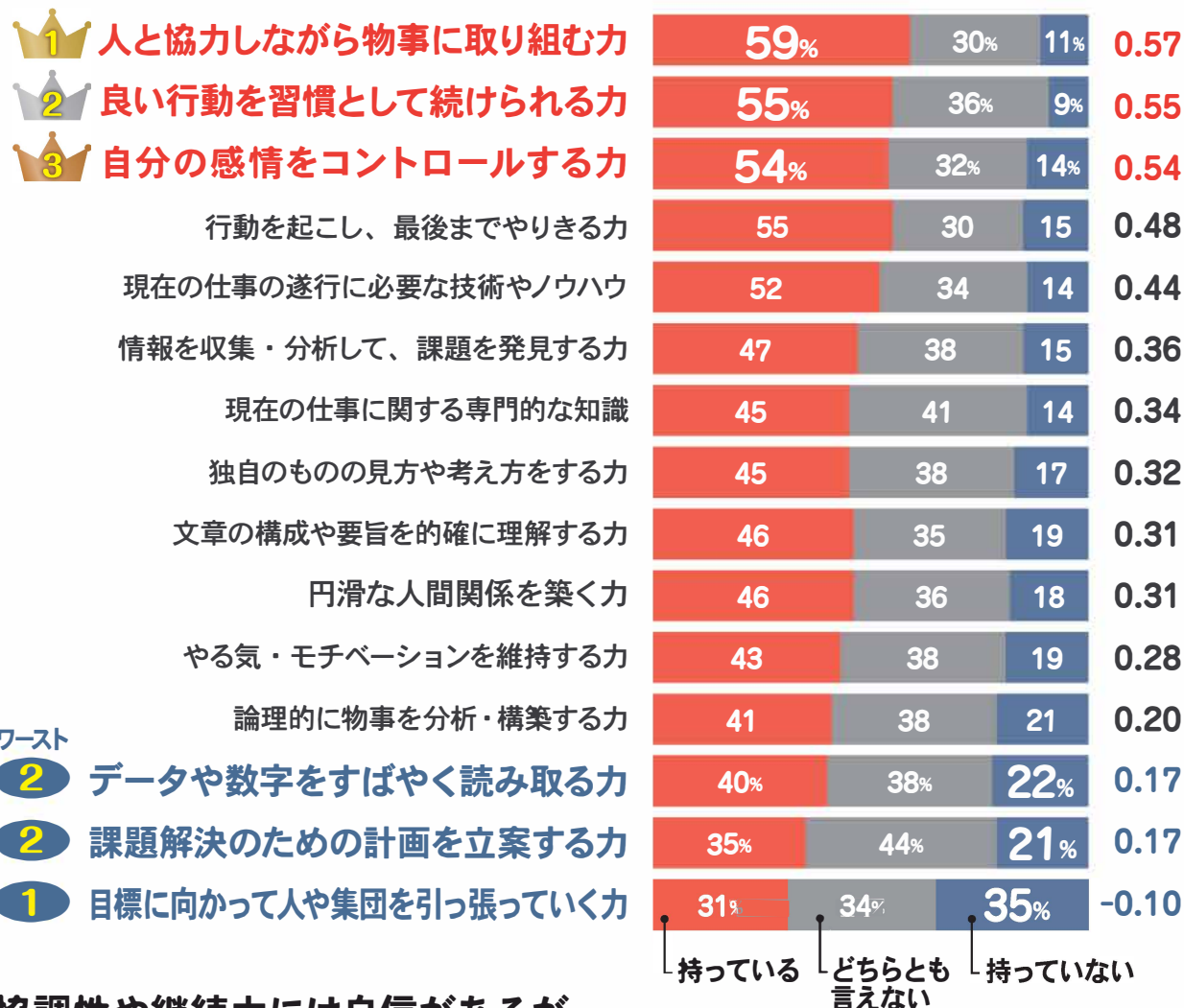
仕事・職業人生を考えた場合、
知識やスキル不足を感じますか？



一般社員の 77%が知識やスキル不足を感じている。

質問

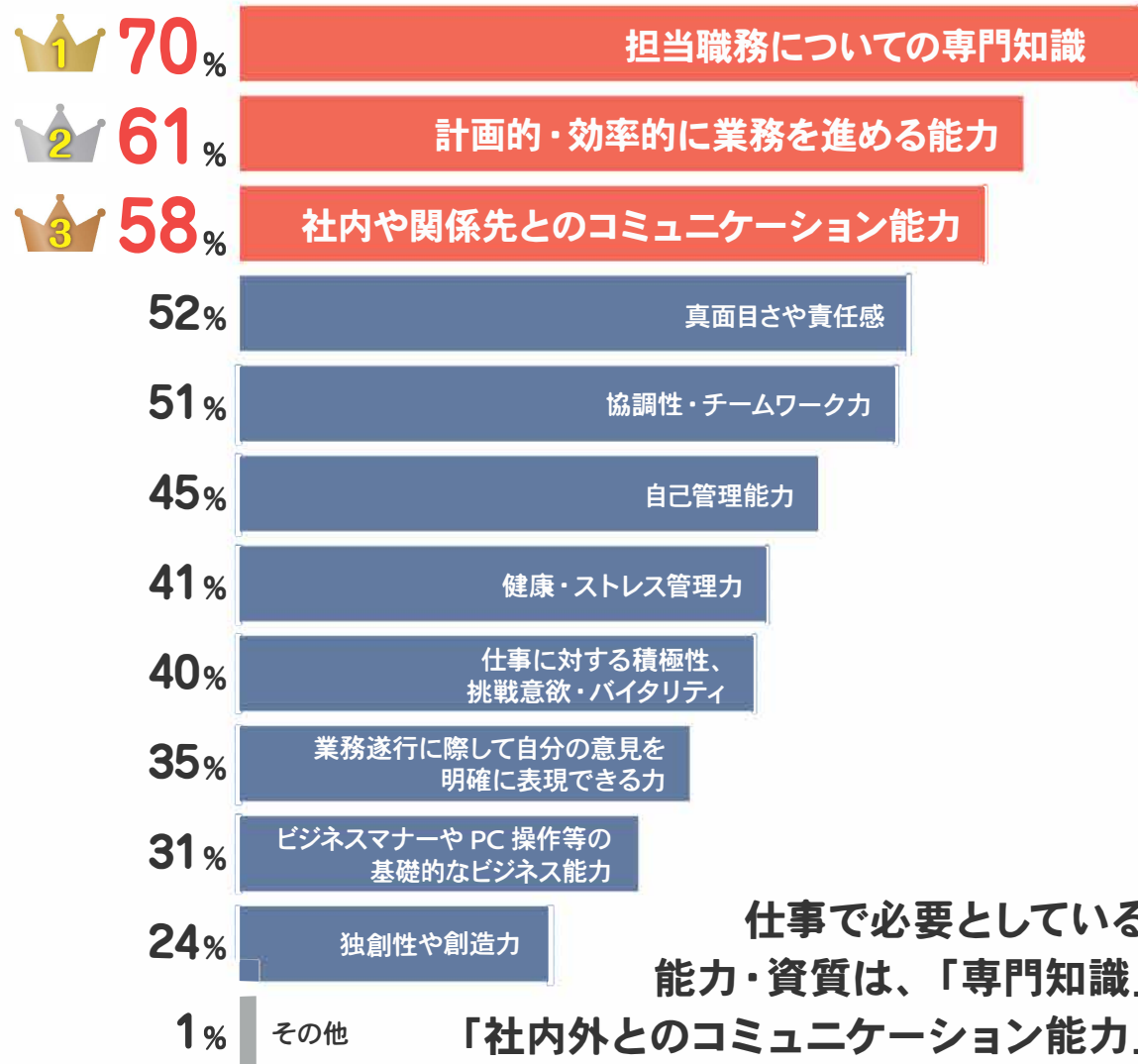
仕事を行う上で各能力を持っていますか？



協調性や継続力には自信があるが、
リーダーシップや立案力・データ分析には自信がないという結果だった。

質問

仕事上で必要な能力・資質は？（複数回答）

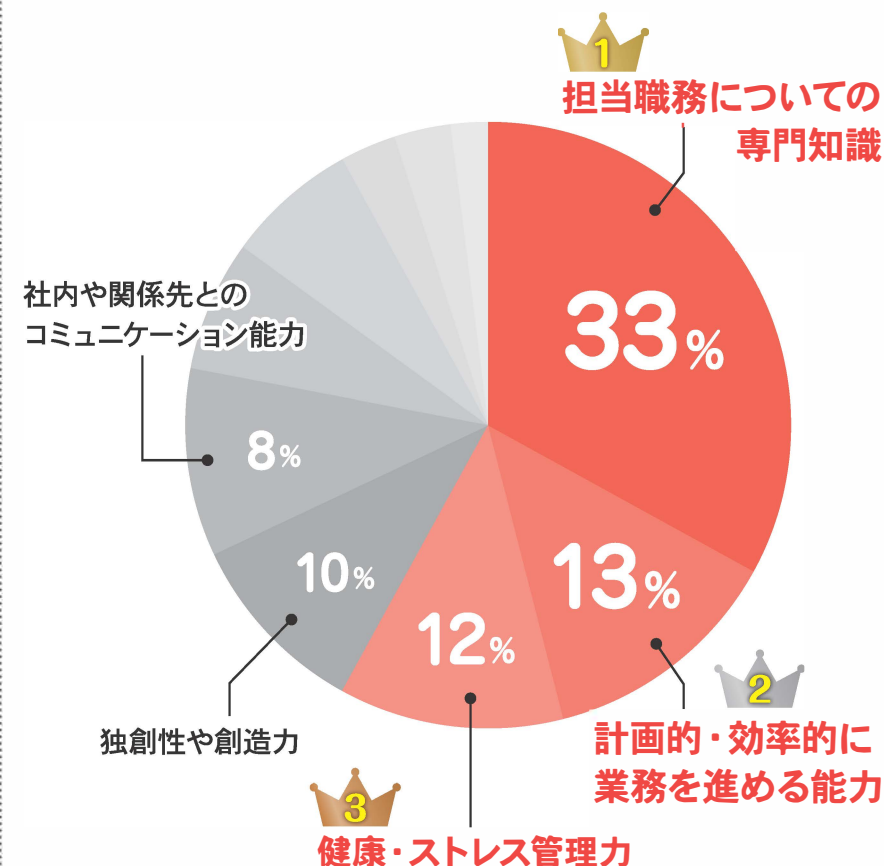


仕事で必要としている能力・資質は、「専門知識」「社内外とのコミュニケーション能力」「業務をスムーズに進める能力」。

2017年
岡山県一般社員における
働き方の意識調査

質問

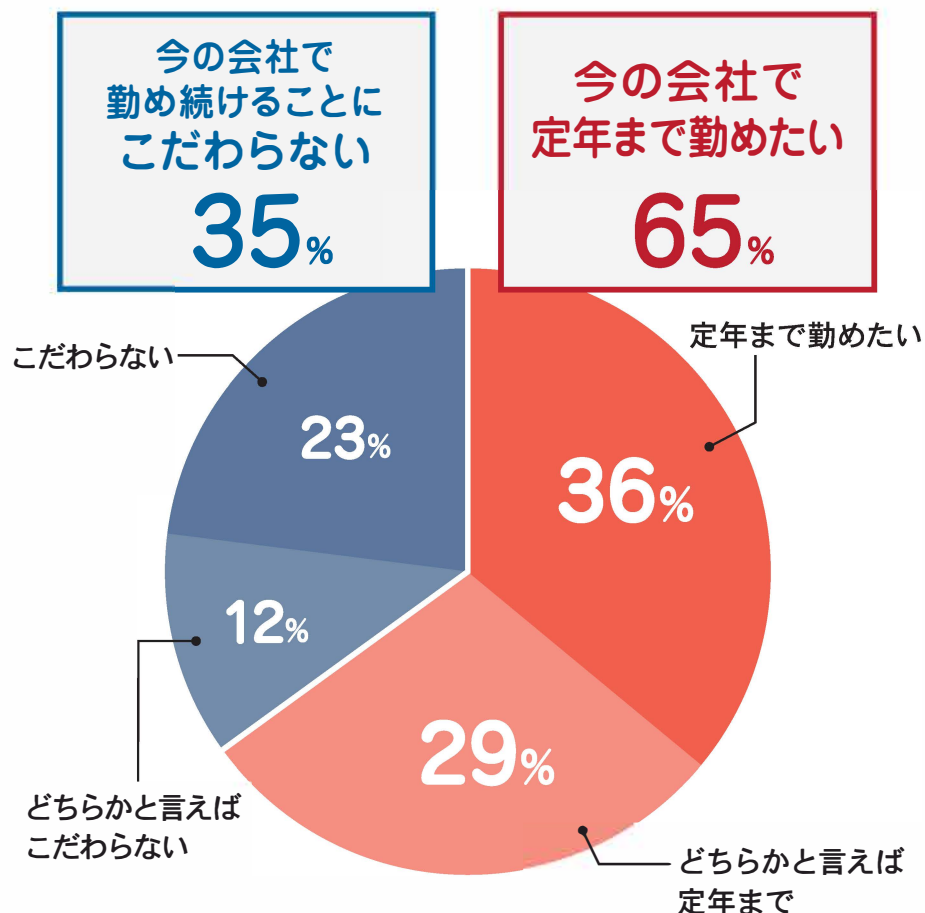
仕事を行う上で今後もっとも身に付けたい能力や資質は？（単一回答）



今後もっとも身に付けたい能力・資質は、33%が「担当職務についての専門知識」。

質問

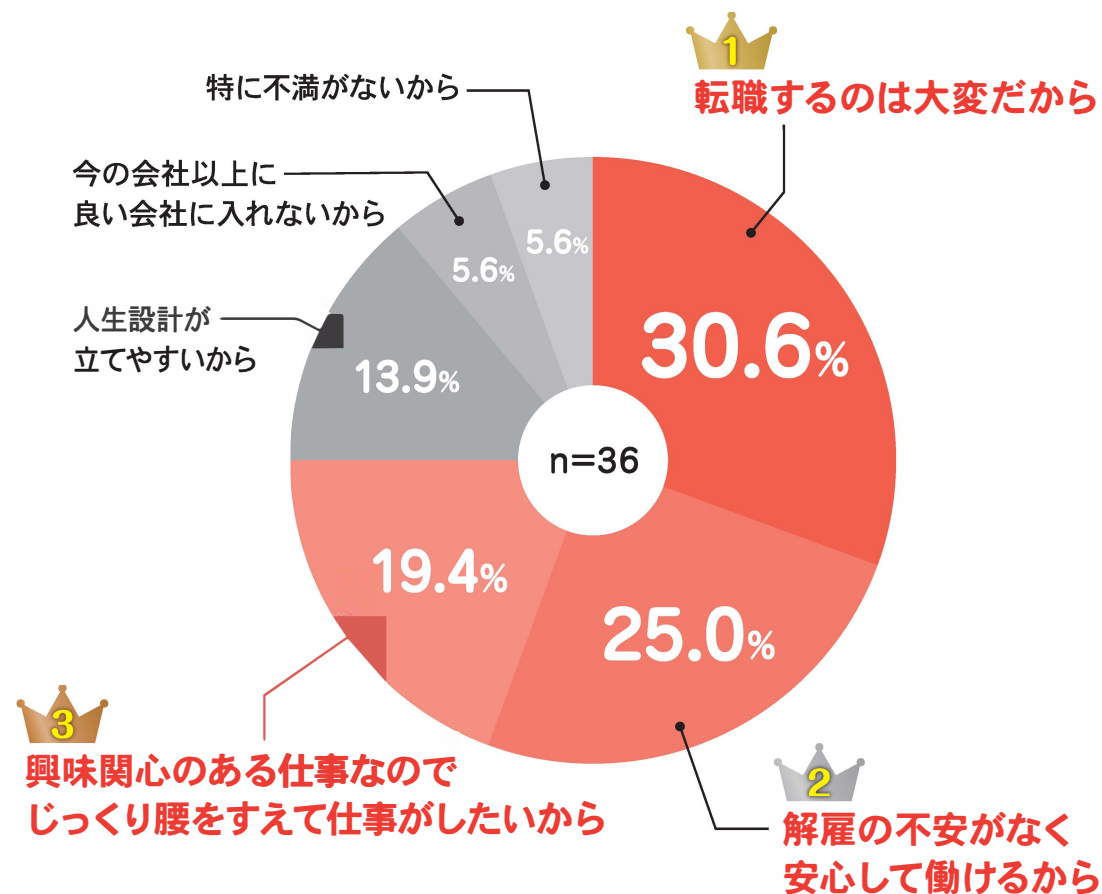
今の会社で「定年まで勤めたい？」
それとも「勤め続けることにこだわらない？」



今の会社で定年まで（＝終身雇用）を望むのは
65%で、長期雇用を求める割合の方が多い。

質問

定年まで勤めたい理由は？（単一回答）

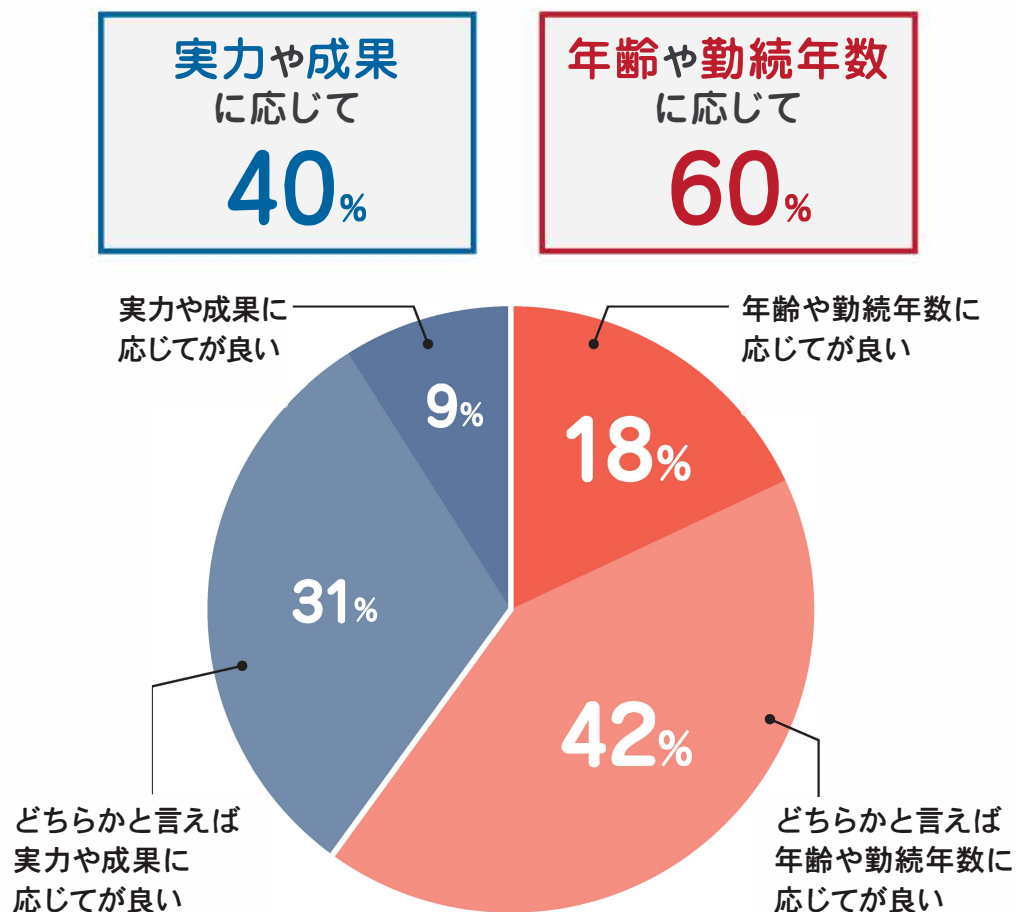


定年まで勤めたい理由は、
「転職は大変」
「解雇の不安がない」
「腰をすえて仕事をしたい」で75%をしめる。

2017年
岡山県一般社員における
働き方の意識調査

質問

昇格・昇給は「年齢や勤続年数に応じてが良い？」
それとも「実力や成果に応じてが良い？」

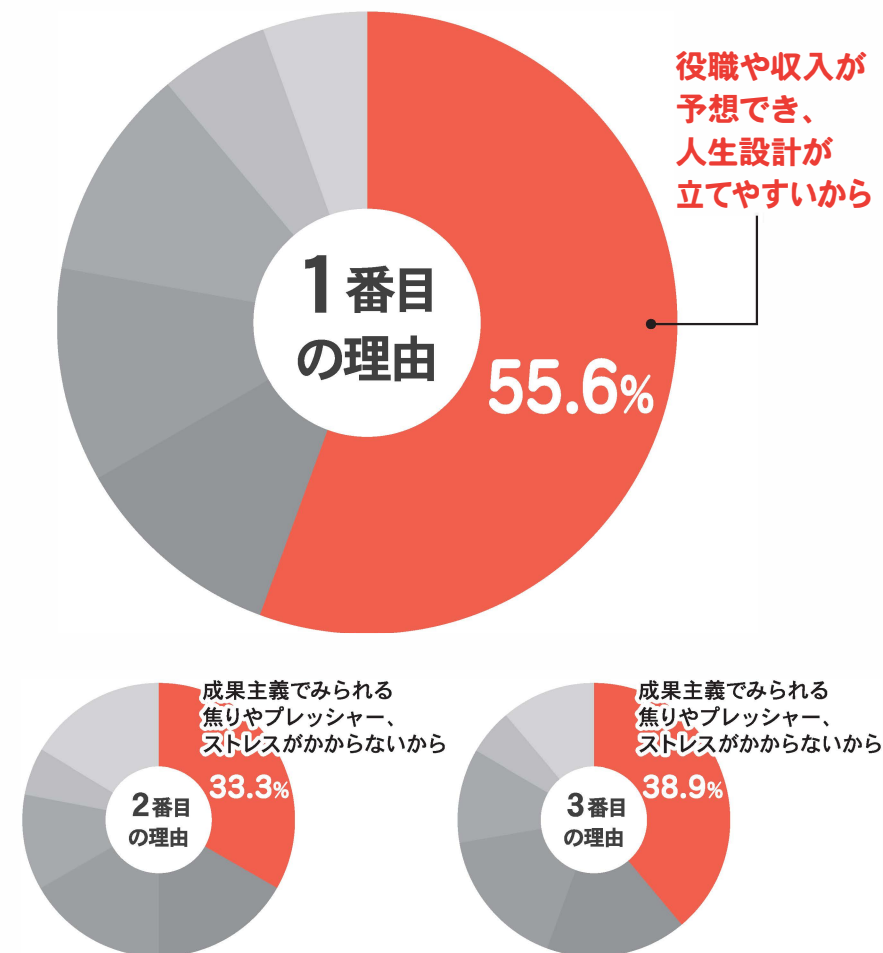


60%が年齢や勤続年数による昇格・昇給（＝年功序列）を、
40%は実力や成果（＝成果主義）を望んでいた。

質問

年齢や勤続年数に応じて昇格・昇給されるのが
良い1～3番目までの理由は？（n=18）

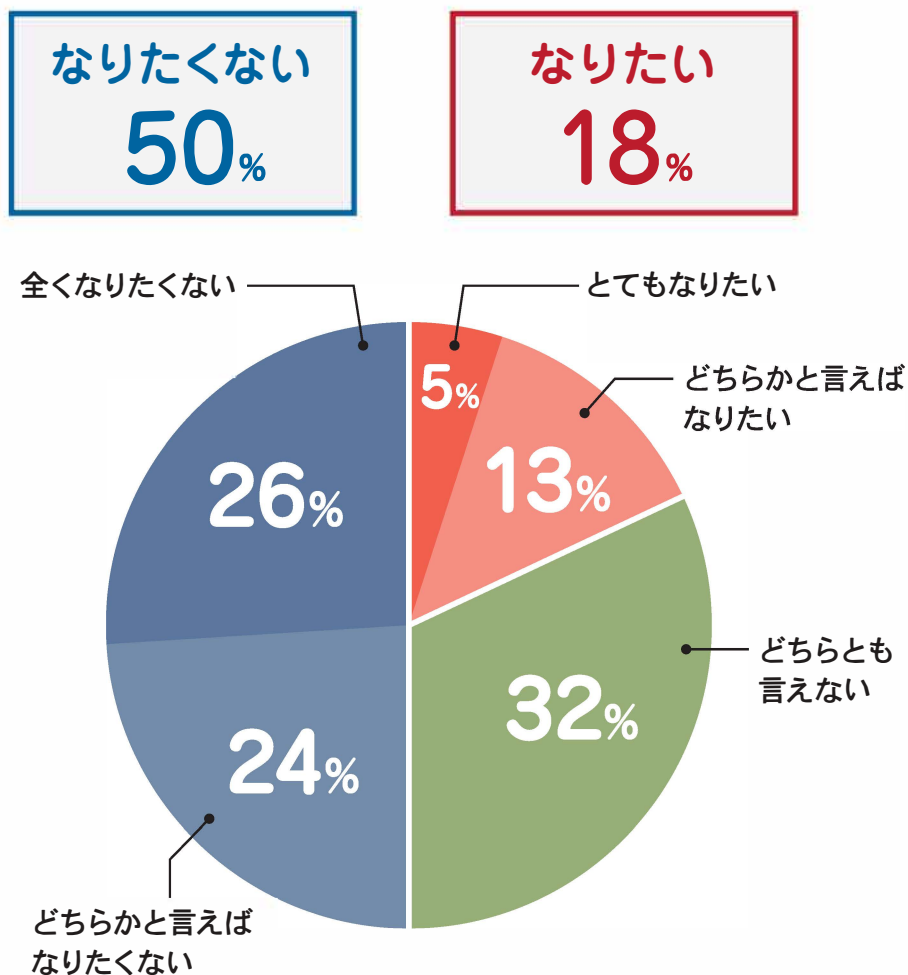
※サンプル数が少ない
ため参考値



年功序列を望む 1 番の理由は、人生設計の立てやすさ。
2 番目・3 番目の理由は共に成果主義のストレスが無いからだった。

質問

現在の仕事で管理職になりたいですか？

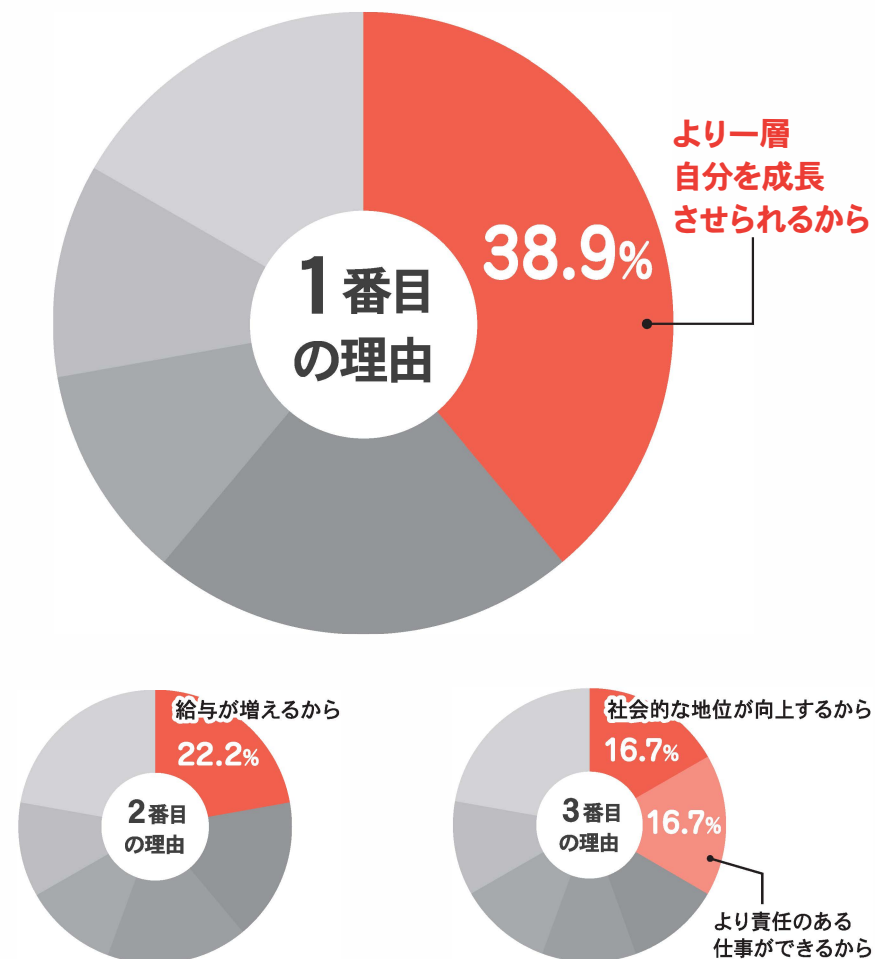


一般社員の半数が管理職になることを望んでいない。

質問

管理職になりたい1～3番目までの理由は？ (n=18)

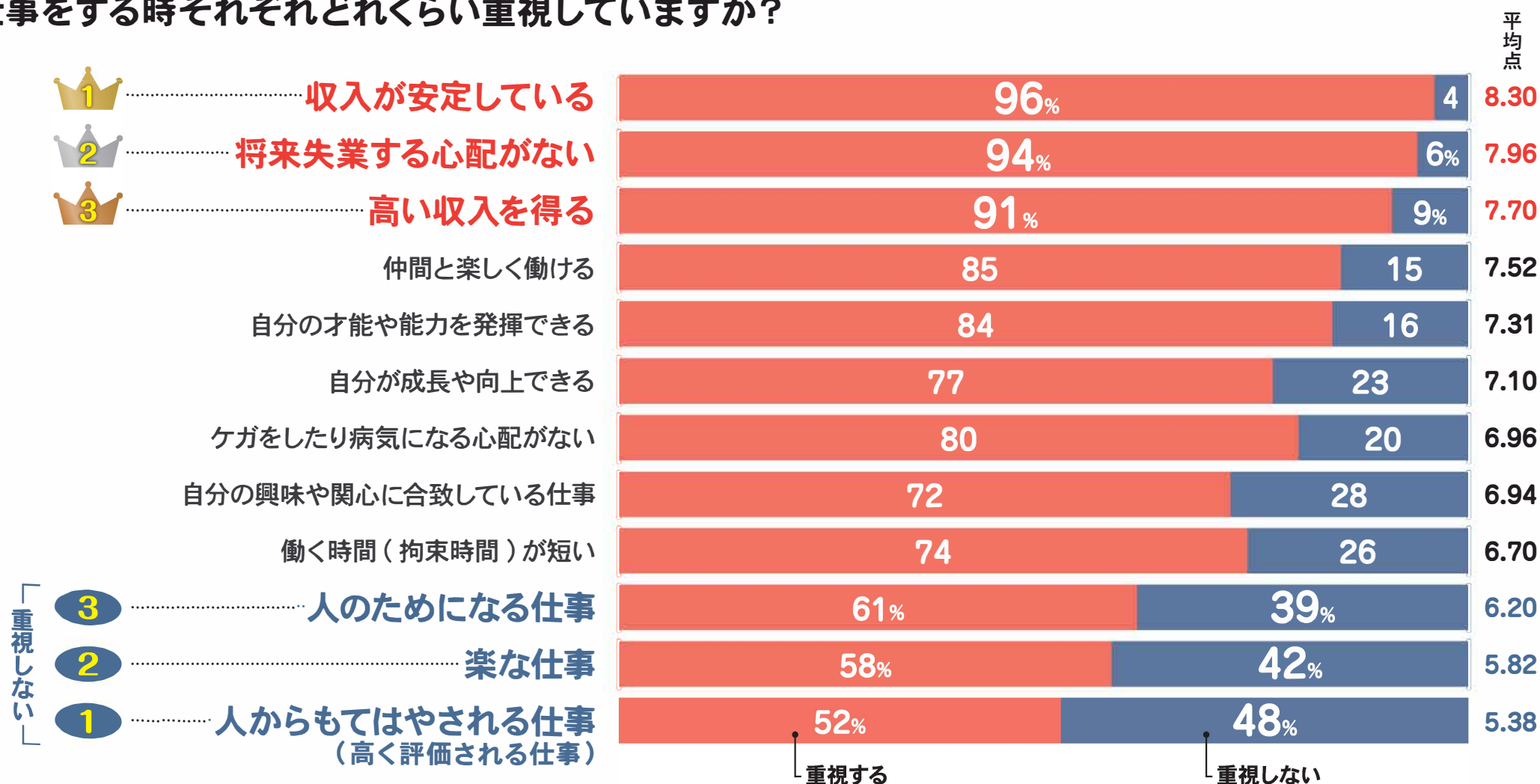
※サンプル数が少ないため参考値



1番の理由は自分自身の成長。給与の増加や一定の立場や役割を担うこともモチベーションになっている。

質問

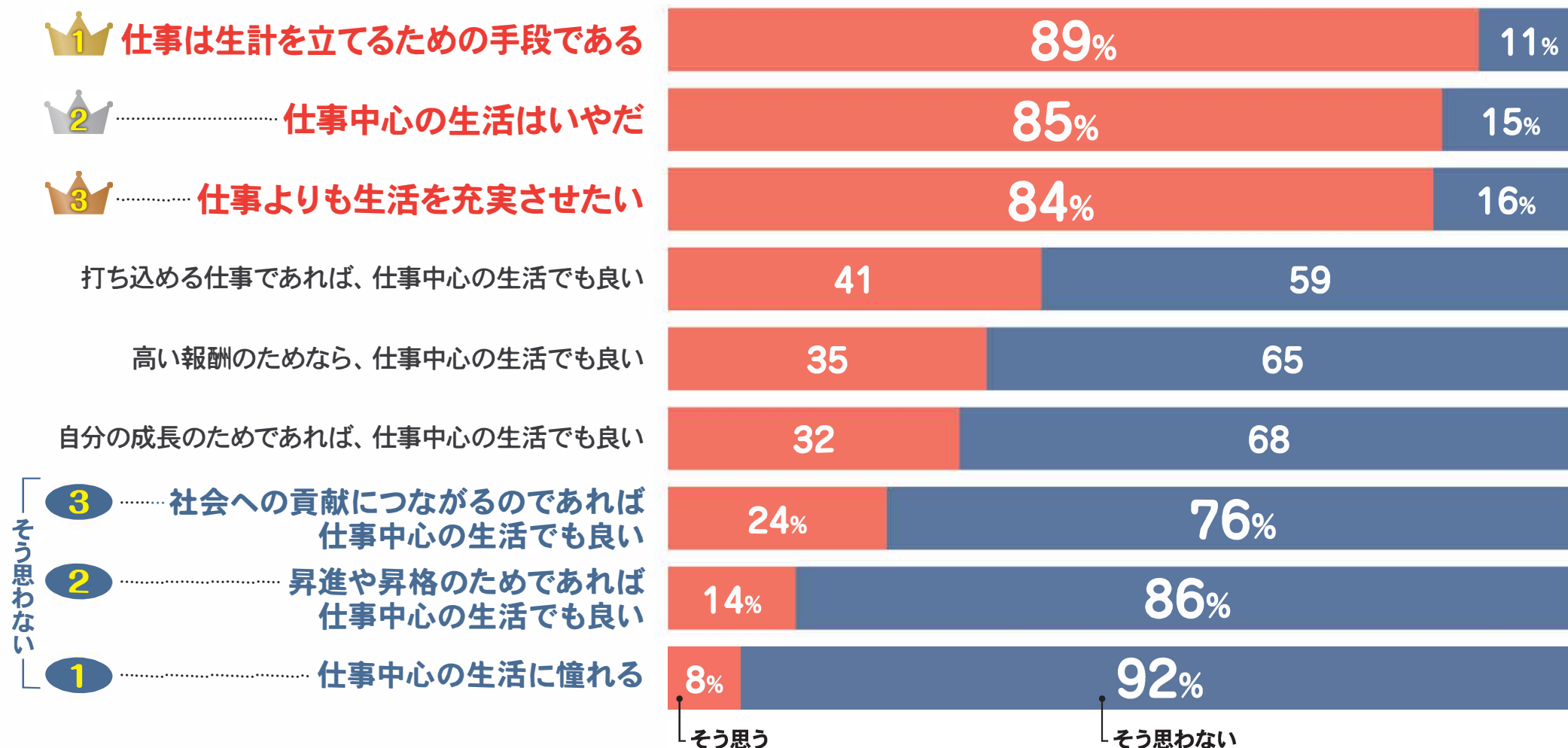
仕事をする時それぞれどれくらい重視していますか？



「安定した収入」、「失業の心配がない」、「高い収入」は重要視するが、
「人からもてはやされ」たり「楽」であったり、「人のためになる」仕事かどうかは重視していない。

質問

仕事に対するそれぞれの向き合い方についてどう思いますか？



仕事は生計のための手段と捉え、仕事中心の生活より生活の充実を望む傾向にある。
それゆえ、昇進や社会貢献につながっても仕事中心の生活は望まないという結果だった。